S-face

SFC makes the future through researches

欧州を通じて国際安全保障を
国際安全保障を通じて
欧州を分析する

鶴岡 路人

VOL.
035
2023 Mar. 発行
和の色:紺青色

今の世界で起きていることを日本人の目線で見極める

新型コロナウイルスのパンデミックの終息も未だ見えない中、2022年2月にロシアのウクライナ侵攻が始まり、世界的な物価上昇、エネルギー危機など、ますます混乱した状況にあります。このような世界情勢においては、専門的な視点で各国の状況や関係などを分析する必要があります。国際政治学や国際関係論を専門とする鶴岡路人准教授は、現代欧州政治に軸足を置きつつ、今世界で起きていることを見極めようとしています。

欧州政治と国際安全保障が専門 地域を継続して観察することに強み

国際政治学、国際関係論とは、国と国の関係、さらには国を超えた地域や国際社会を分析、説明する学問です。その中でも、私は現代ヨーロッパ（EU）の政治と国際関係、米欧の同盟であるNATO、国際安全保障における同盟論や抑止論を研究テーマとしています。

この分野では、歴史研究も盛んですが、私の場合は主に今日の問題を研究対象にしています。今まさに進行中のロシア・ウクライナ戦争も分析の対象です。

国際政治や国際関係を研究していく上では、同じ地域、同じトピックを継続してウォッチし続けていることが非常に重要で、そこに研究者のアドバンテージがあると考えています。私の場合は、自身がイギリスに留学していた経験があることから、イギリスのEUからの離脱（Brexit）、エリザベス女王の死去と新国王の誕生、度重なる政権交代と、イギリスの動向も大いに注目しています。何十年にもわたって同じ地域にフォーカスしていくと、何らかの問題が生じた際に、例えば10年前に同じような議論があったときにはどのように決着したかを瞬時に紐付け、さらに当時と変わった部分の分析ができるようになります。

欧州のゲートウェイを失った 日本外交はどこへ向かうのか

2016年の国民投票で英国はEUからの離脱を決定しました。その後、紆余曲折があり、当初予定より遅くなりましたが、2020年1月末に正式に離脱しました。日本にとっても大きな影響があります。古くは1902年の日英同盟が有名ですが、戦後も、日本にとっての欧州といえばまずは英国でした。

英国に進出する日本企業も多いです。多くはEU全域を見据えてのものでした。製造業であればEU市場への輸出が重要ですし、金融業界では、ロンドンに進出しながら、EU各国の従業員を雇っていたのです。モノのみならずヒトの自由移動が保証されたEUの単一市場が狙いでした。英国はEUへのゲートウェイだったわけです。

政治面でも英国の役割は大きかったといえます。「特別な関係」と呼ばれるように、英米が極めて密接な同盟国である事実は、同じく米国との同盟を重視する日本にとっても、英国と関係を強化するうえで安心材料でした。島国であり、海洋国家だという共通点も見逃せません。

EUへのゲートウェイとしての英国の役割の多くは、英国のEU離脱によって終わるため、ドイツやフランスなど、新たなゲートウェイを探す必要があります。英国中心にまわってきた日本の欧州理解自体が転換点を迎えています。

他方で、インド太平洋地域への関与など、安全保障パートナーとしての英国の重要性は変わりません。最近では、日英伊の3カ国で次期戦闘機を共同開発することも決定されました。2021年の英空母クイーン・エリザベスの日本寄港もまだ記憶に新しいところです。

Thinking about the future of the UK

今後のイギリスにも着目

エリザベス女王の死去にともないチャールズ新国王が誕生し、ウクライナ支援で大きな役割を果たすイギリスは今後も興味深い観察対象。そんな中で新国王が英国民、さらには豪州やカナダなど、英君主を元首とする諸国、英連邦（コモンウェルス）でいかに受け入れられるかに着目している。また、北アイルランド国境問題など、Brexitの「後始末」が残っている状況で、どのように「グローバル・ブリテン」を推進していくか関心がある。

Publication for general audience

社会に向けた情報発信

ロシア・ウクライナ戦争の勃発以来、研究のアウトプットや情報発信をどうすべきか考えている。研究者として論文という形で発表するのは当然として、特にこのような情勢においてはメディアを通じた一般向けの情報発信も重要だと考える。そういった活動を社会貢献と呼ぶこともできるかもしれないが、研究者である以上「これを私が論じないでどうする」という思いが強い。そのために自分の好きなテーマで書ける場所を自ら開拓し、発信できるようにしている。近く、ロシア・ウクライナ戦争関連の書籍を出版する予定。

Emphasizing the importance of developing English skills and analytical abilities

英語力・分析力の重要性を伝える

学生に対しては、いつも「英語力を使えるようにしなさい」と話している。賃金が上がらない日本ではやっていけないとなったとき、日本語しかできないのでは逃げ道がない。慶應の卒業生の上位2～3割が「日本でなくシンガポールや香港で就職する」となれば、この国の企業は変わらざるを得なくなる。さらに重要なのは「分析力」だ。学生時代に学ぶものなど何でもいいので、情報リテラシーや分析力を身につけてほしい。そうした知的体力は一生モノだ。

日本人の日本人による 日本人のための欧州研究

「学問には国境がない」などと言いますが、果たしてそうでしょうか。私は、明確に国境が存在していると思っていますし、それが良くないことだとは考えていません。私はイギリスの大学院で博士号を取得しましたが、日本人がヨーロッパ研究をしても、ヨーロッパで生まれ育った人と同じにはなりません。

特に外交や安保に関しては公開されていない機密情報も多いため、研究の本拠地を定めて、政策やジャーナリズムを含む多様なコミュニティに食い込むことが重要になります。その本拠地を母国以外の国に定め、その国の人と同じように活動することは、国境のあるこの世界においてはかなり難しいのです。

こうした背景から、私自身は「日本人の、日本人による、日本人のためのヨーロッパ研究」を目指すことに辿り着きました。厳しい学問の世界で生き抜くためにも、持てるアドバンテージは全部使うべきです。私にはイギリス人を相手にしても負けない武器のひとつに日本語がありますが、その武器を使わずに闘うのは、右利きなのに左手で勝負するようなものです。政府関係者との付き合いにおいても、外国人であるハンディは大きいです。そして、日本人だからこそ、日本にはよりよい国になってほしいのです。

Profile
鶴岡 路人
慶應義塾大学 総合政策学部 准教授。同大学 法学部卒業後、同大学院 法学研究科 修士課程修了。米ジョージタウン大学大学院を経て、英ロンドン大学キングス・カレッジにて博士号（Ph.D in War Studies）取得。在ベルギー日本国大使館専門調査員、米ジャーマン・マーシャル基金（GFM）研究員、防衛省防衛研究所主任研究官、英王立防衛安全保障研究所（RUSI）訪問研究員などを経て、2017年より現職。

詳しくはWebサイトへ

詳細インタビューや動画もご覧いただけます

S-face　検索

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス（SFC）
慶應義塾大学 SFC研究所
慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322
Tel: 0466-49-3436（ダイヤルイン）
E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp